

2026/04/20

新江ノ島水族館
日本大学生物資源科学部
公益社団法人 黒潮生物研究所

リニューアルした深海生物標本コーナーで 超貴重な深海性のクラゲの仲間 オトヒメノハナガサ属の一種の特殊な標本展示を開始

新江ノ島水族館(神奈川県藤沢市)は、2026年4月5日(日)より展示「深海Ⅰ」の標本展示コーナーで、クラゲの仲間で世界最大級のポリプ「オトヒメノハナガサ属の一種」の標本展示を開始しました。この個体は2025年1月に江の島の沖で日本大学生物資源科学部海洋生物資源科学科(神奈川県藤沢市)の荒教授と江の島の漁師である湯浅氏が採集し、当館と公益財団法人黒潮生物研究所(高知県幡多郡大月町)が調べ標本にしたものです。



展示を開始した「オトヒメノハナガサ属の一種」の浮遊標本(大きさ 約 50cm)

2025年1月、江の島沖で調査をされていた日本大学の荒教授から「海面で変な物がとれた。生き物かもよく分からない」と連絡があり、当館の展示飼育スタッフ(山本)が受け取りに行きました。鮮やかなオレンジ色をした、一見すると巨大な綿毛のようなものでしたが、よく見てみると見覚えのある構造をしており、これが巨大なクラゲのポリプであることが分かりました。急いで水族館に持ち帰り、展示できる状態ではなかったため研究用に薬品で固定をしました。その時点では、恐らく

「世界最大のポリプ」と呼ばれているオトヒメノハナガサであると考えていましたが、黒潮生物研究所の戸篠氏に遺伝子解析を依頼した結果、オトヒメノハナガサとは遺伝子的に少し違うということが分かりました。そのため、今回の展示では本標本を「オトヒメノハナガサ」ではなく「オトヒメノハナガサ属の一種」として展示を開始しました。オトヒメノハナガサの仲間の情報はほとんどなく、本個体の種を同定することはかなり難しいと思われませんが、次にこの仲間が手に入ったときに必ず役に立ちます。

オトヒメノハナガサの仲間は普段は海底に生息しており、恐らく海が荒れたり他の生き物がぶつかったりしたことで根元からちぎれてしまい、海面に浮きあがったところを偶然荒教授によって拾われ、しかも正体に気付くことができるクラゲ担当に行き渡る、という運命的ともいえる経緯でえのすいにやってきた特別な標本です。この仲間が水族館で展示されることは、標本であれ世界的に見ても珍しく、多くの方に見ていただけたらうれしいと思っています。



日本大学 荒教授(左)と、源春丸船長 湯浅氏(右)

オトヒメノハナガサ属の一種が受け渡された時のようす

<本件に関するお問い合わせ>

新江ノ島水族館 広報部 広報チーム

〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1

TEL 0466-29-9963(広報直通) FAX 0466-29-9967

<https://www.enosui.com/>

公益財団法人黒潮生物研究所 主任研究員 戸篠 祥

〒788-0333 高知県幡多郡大月町西泊 560 番イ

TEL: 0880-62-7077 FAX: 0880-62-7078

E-mail: toshino@kuroshio.or.jp

<https://kuroshio.or.jp/>

日本大学 生物資源科学部 庶務課 広報担当

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

TEL: 0466-84-3800 FAX: 0466-84-3805

E-mail: brs.koho@nihon-u.ac.jp

<https://www.brs.nihon-u.ac.jp/>